

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791000094		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームあだち ユニット1		
所在地	福島県二本松市洪川字上弘川27-1		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年11月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺を田んぼや山々に囲まれ、四季を感じることができる自然豊かで、のどかな環境にあります。また、近くのクリニックから訪問診療を受けることができる為、安心して医療を受けることができます。事業所にある畑には、入居者が主体となって育てた野菜や花が育ち、採れた野菜が食卓に並べられています。定期的に、お楽しみ昼食行事を実施し、前もって、自分が食べたい弁当を聞いて、皆様、喜ばれておられます。これからも自然に囲まれた地域と共に歩みながら、入居者が主役となるサービスを提供して参ります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人は県内に複数の介護事業所を展開しており、法人として地域密着型事業に対する基本的理念を示し、各事業所運営に反映させている。また、法人には”防災担当者”があり、各事業所を防災面から指導監督している。  
 2. 法人では専門学校と協力し職員研修に努め、職員の資格取得を支援している。資格取得者には報酬制度もあり、職員の意識高揚につながっている。  
 3. 事業所では協力医療機関から月2回の往診があり、さらに医療連携体制の看護師の訪問が週1回あり、利用者の健康管理にあたっており、家族の安心につながっている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とホームの理念を目に入る位置に掲示し、朝の申し送り時に唱和している。入居者様も職員も笑顔で過ごせるように努めている。	地域密着型事業所としての意義を踏まえた理念で「地域と共に歩み……」と表現されている。法人理念・事業所理念ともに玄関と事務室に掲示している。毎朝全職員で唱和し意識を共有して毎日のサービスで実践している。「事業所だより」へ理念を掲載し、家族にも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、散歩がてら道端のゴミ拾いを入居者様と一緒にやっている。近くの幼稚園から、ボランティア慰問の連絡もあった。(社会情勢により、休止となった。)	地域のボランティアの訪問も複数あり、日常的に地域の一員として交流している。今年は「コロナ禍」により計画通りの活動はできずにいる。中高生のハンドベル演奏を受け入れている。また、近隣住民から野菜の提供もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学を受け入れる際には、認知症の症状等の説明を行っている。また、地域包括センター主催のオレンジカフェの実行委員として、運営のお手伝いもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、地域の現状を把握したり、地区の方の意見やご家族の要望等を伺っている。(社会情勢により、文書にての会議)	運営推進会議は定期的に行われ、委員からの意見や要望は「スタッフ会議」等で検討し事業所運営に反映させ、サービス向上に努めていたが、5月以降は会議開催には至らず委員に会議資料を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者より、研修の案内を頂いたり、何か不明な点や相談があれば、窓口に向うようにしている。	行政の高齢福祉課担当者とは、介護保険の認定更新手続きや外部評価結果の報告及び目標達成計画内容等を通して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化委員会を設置し、3か月に1回会議を開催している。毎回チェックシートを用いて、身体拘束に当たる行為がないか確認している。	事業所では「身体的拘束等適正化委員会」を平成30年に設置し、年4回開催している。委員会が中心となり、身体拘束の弊害について全職員が共有し日常のケアで実践している。言葉による拘束の廃止にも職員相互に注意し合っている。日中玄関の施錠は無く職員の見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを周知し、研修に参加している。スタッフ会議内にて研修内容を伝達し、職員間で気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度に関する研修を受け、何かあれば、行政や地域包括支援センターに相談し、制度が活用できるような体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分に時間をかけ、不明な点がないよう、その都度確認している。退居の際も、ご本人とご家族が納得できるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族から意見や要望があれば、スタッフ会議にて協議し、必要に応じて法人に相談している。運営推進会議にてご家族からの意見を頂くこともある。	利用者の意見や要望は日常の会話や仕草等から聞き取り、家族からの意向や要望は面会時・電話連絡時・携帯メール・運営推進会議等の中から聞き取っている。把握した意向や要望は月例の「スタッフ会議」で検討し、事業所運営やサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に管理者の面談を行い、事業所の現状を把握している。管理者も定期的に面談を行い、職員個々の状態を把握している。	管理者は日常的に職員との会話を大切にしており、何でも言える環境である。また、6ヶ月毎に個別面談や人事考課を行い、「ケース会議」や「スタッフ会議」等での意見や要望を事業所運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行い、処遇に反映させている。個人や家庭の事情に合わせてシフトを調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、年間計画に沿って、職員の能力に応じた研修を実施している。法人内外の研修も積極的に参加できるように調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修や情報交換会などで、情報交換している。また、法人内の事業所も地区ごとに毎月会議を行い、情報を得ている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない時期は、コミュニケーションを多くとり、ホームでの生活に早く慣れて頂けるよう、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心情を考慮しながら、安心して任せて頂き、信頼関係を構築できるよう、積極的に意見を聞、連絡調整を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話受け付けや見学、実態調査の際には、ご本人に合ったサービスが提供できるか検討し、体験入居も実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲でホーム内のお手伝いをお願いしている。植栽などもスタッフと共に活動している。入居者様同士で声を掛けたり、助け合ったりしている姿が見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に何かあれば連絡するようになり、対応に困った時には、一緒に考えて頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの手紙のやり取りをお手伝いしたり、面会も限られた時間であるが、楽しみにされておられる。	面会がままならない状態なので、友人との手紙のやり取りのお手伝いやスマホ等の動画や写真で交流できるよう支援している。家族もスマホ等での会話を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮した席の配置とし、会話をしたり、お手伝いを一緒にしたり、交流が図れるようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、電話の相談に応じたり、他事業所との調整を図ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望は、日々の暮らしの中から把握している。自分の意見がなかなか述べられない方には、簡単な質問で対応している。	担当職員が、毎日の生活の中での会話や仕草等から利用者の意向や思いを把握し、「スタッフ会議」や「ケース会議」で検討し全職員が共有して日々のケアに当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の際、生活歴や既往歴等を把握し、入居後も新しい情報があれば、記録し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かをする時は、必ず声を掛け、同意を得てから実施するようにしている。一人ひとりの今の状態に合わせて、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは基本的に3か月に1回実施している。ケース会議は毎月実施し、本人や家族、主治医や看護師、職員の意見等を介護計画に反映させている。	利用者・家族の思いや利用者の身体状況のアセスメント結果をもとに、入居時は1か月程度の計画でスタートし、その後の経過から短期3か月・長期6か月毎に「ケース会議」での職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。状況変化時には医師・看護師・職員で検討しその都度現状に即した計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を個別的に記入し、変化や気づきがあれば、特記事項や業務日誌に記入、ケース会議にて検討し、介護計画の見直しに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様からの要望に応えられるよう、必要に応じて他事業所のサービスも検討したり、法人へ相談したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所へ散歩に出かける際、地域住民の方々へ挨拶をしたり、近くのコンビニへ買い物へ出かけたりもしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続するか、訪問診療を受けるか希望に応じている。通院の際には、ご家族の協力を得て、対応している。	入居前のかかりつけ医の受診の支援をしている。受診には家族同行を基本としている。家族には利用者の状況を伝え、受診結果はお互いで共有している。また、協力医療機関の医師の往診が月2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師が週1回訪問し、健康管理を行っている。訪問時に毎回情報の共有を行い、適切な医療につながられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、ご家族と協力し、医療機関と連携を図り、早期退院につながられるよう、定期的に連絡共生をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて終末期の意向を伺っている。重度化した場合には、再度書面にて意向を確認している。看取りも医療機関など関係者と協力し、実施している。	事業所では、「重度化した場合における(看取り)指針及び医療連携体制同意書」及び「終末期の看取りについて(事前確認書)」を策定し、利用開始までに利用者と家族に説明し同意を得ている。終末期を迎えたら再度意向を確認し、医療機関と連携しながら看取り支援を行っている。全職員が意識を共有して看取り介護を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に本社担当者が救急救命訓練を実施して下さっている。事故発生対応マニュアルを周知し、全職員が緊急時に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合訓練を実施し、年1回は消防署立ち合いにて行っている。近隣の方とは顔馴染みとなっており、何かあれば助け合える関係ができています。	消防署立ち合いの総合防災訓練は年1回実施している。事業所では毎月あらゆる災害を想定した訓練(避難・通報・連絡網確認・AED訓練等)を行っている。法人に防災担当者がおり意識を共有している。非常時用の備蓄品として米・水・缶詰・コンロ・シート・衛生用品等を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室、トイレが備わっている為、プライバシーが確保されている。声掛けの際には、一人の人として自尊心に配慮している。	全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重し入浴の誘導時には静かに言葉を掛ける等配慮している。また、利用者との懇談会を行い、利用者からの意見・要望を聴き取り、日頃のケアに活かしている。広報紙に掲載する写真等は事前に掲載同意を得ている。個人情報簿冊は施錠可能なキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では、遠慮なく意見を言える雰囲気をつくるようにしている。また、何かを行う際には、意思を確認し、ご本人に決めて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり過ごし方が違う為、その方に応じて対応している。体操やレクリエーションも無理強いすることなく、希望に応じて参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、その方に応じて声掛けや見守りにて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	テーブル拭きや配膳等をお願いしている。入居者様を中心となって野菜作りを行い、採れた野菜を食卓に並べている。	食材納入業者の栄養士が作成した献立表を基に食材も同業者から購入している。利用者は出来る範囲で食事の準備を手伝い、職員も一緒にテーブルを囲み、食事が楽しめるよう支援している。近隣からの差し入れの野菜や事業所で利用者と共に栽培した野菜も食卓に上っている。行事食も多く取り入れ、現在はテイクアウトも利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を個別的に記録し、不足されている方には栄養補助を行い、主治医に随時報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。その方の力量に応じて、歯磨きやうがいなど、介助や見守りにて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレにて排泄ができるよう、定時や訴え時にトイレ誘導を行っている。オムツを使用されている方も、不快にならないよう、こまめに交換を行っている。	利用者個々の排泄記録表を基に、経過時間や利用者の仕草等からトイレでの排泄を目標に、声掛け誘導を行っている。便秘対策として運動や水分補給のほか乳製品の利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分を促し、自然排便を心掛けている。下剤を使用する際には、主治医の指示の下、使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用し、ゆっくりと湯船に浸かっている。曜日は決めず、女性職員希望の方には、女性職員が対応している。	利用者の気分や体調に合わせて入浴支援をしている。入浴を嫌がる利用者には時刻・話題・担当者を変えたりしながら誘導している。体調により入浴出来ない利用者にはシャワー浴・足湯・清拭等で対応している。季節を感じるようにゆず湯や菖蒲湯等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室やソファで休まれたり、横になられたり、自由に過ごされている。夜間は音や光、温湿度に配慮し、安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の記録は個別に記入し、薬の内容を把握している。誤嚥がないよう、何度も職員間で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や塗り絵、折り紙等、趣味を楽しまれている。ご家族も協力的で、裁縫道具等を持って来られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、近くに散歩に出かけたり、外出行事を企画し、本社バスにより、出かけたりしていた。	好天時には事業所周り等の散歩や外気浴を楽しんでいる。近所のコンビニエンスストアへの買物も散歩を兼ねて出掛けている。事業所行事として花見・紫陽花等を見物する外出行事があった。家族の協力を得て、外食・墓参り・温泉・外泊・提灯祭り等に出掛けていたが”コロナ禍”で中止中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームにて管理し、少額自己管理されている方もいる。近くの大型スーパーに買い物に行き、好きな洋服等を購入されていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したいと言われる方がいる為、ご家族の協力を得て、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、入居者様で作成したちぎり絵を掲示したり、季節に応じた飾り付けを行っている。不快を招くような音や光、臭いに注意し、快適な温湿度を心掛けている。	共用空間にはイスと机のエリアとソファエリアがある。エアコン・換気扇を配置し静かにテレビ観戦等で過ごしている。壁には利用者が作成した季節を感じる作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルより少し離れた位置にソファを置き、一人で過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族には入居の際に、馴染みの物を持ち込んで頂くよう、お願いしている。家族の写真や飾り、自分の作品を飾ったりしている。	居室にはエアコン・換気扇・介護ベット・トイレ・洗面台・箆箆を設置し、利用者の使い慣れた家具・机・テレビ等が持ち込まれている。壁には家族の写真等が飾られ、居心地良く生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない方には、入口の戸に目印を貼ったり、安全のために手すりを設置したりしている。		